

【 第52回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時：令和7年1月14日（水）14：00～15：00（予定）

場 所：本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長

小川 久雄

理事（研究・グローバル戦略、産学連携担当）

大谷 順

理事（広報・ブランディング・行政連携担当）

宮尾 千加子

内 容：

1. 熊本大学・鹿児島大学・新日本科学との三者間協力協定について（資料1-1、1-2）
大学院生命科学研究部 薬学教育部長 香月 博志
大学院生命科学研究部 教授 本山 敬一
2. 熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターの取り組みについて（資料2-1、2-2）
国際マンガ学教育研究センター 准教授 池川 佳宏
3. 熊助組によるクラウドファンディングの実施について（資料3-1、3-2）
工学部3年 國方 美月（熊助組代表）
工学部3年 石留 幸奈（熊助組副代表）
4. 国際クラスの選考結果について（資料4）
教育系事務担当部 人社・教育系事務課長 岸 良一
5. その他



9 産業界へのお願い | MESSAGE

経済団体・業界団体の長に対し、博士人材の活躍促進に向けた協力についてお願いします。
文部科学省は、企業の皆様とも連携しながら着実に施策を実行してまいります。

※別添正正式の文書により通知

経済団体・業界団体等の長 殿

博士人材の活躍促進に向けた企業の協力等に関するお願いについて

博士人材は高い専門性や国際性、課題設定・解決能力などの汎用的能力を備えた高度専門人材であり、イノベーション創出にも貢献することから、アカデミアのみならず、産業界での活躍が期待されています。文部科学省においては、博士人材の強み・魅力を可視化し、社会の多様なフィールドで一層活躍を後押しするための取組を実施しているところです。

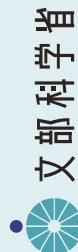
一方、現状では、博士課程修了者の進路として大学教員等のアカデミア志向が強い傾向があり、また、産業界においては博士人材の能力や強みが十分に意識されているとは言えない状況にあります。そこで、文部科学省においては、大学院教育改革の推進、博士後期課程学生への経済的支援やキャリアパスの多様化推進に着実に取り組んでまいります。加えて、「博士人材の活躍促進に向けた企業の協力等に関するお願い」をまとめたので、以下の事項について会員企業をはじめとした企業の皆様に周知していただくとともに、御協力をお願い申し上げます。

1. 博士人材の採用拡大・処遇改善
2. 博士人材の採用プロセスにおける海外留学経験の評価促進
3. 博士後期課程学生を対象としたインターンシップの推進
4. 博士人材の雇用に伴う法人税等の税額控除の活用促進
5. 奨学金の企業等による代理返還制度の活用促進
6. 従業員の博士号取得支援
7. 企業で活躍する博士人材のロールモデルの選定と情報提供

博士人材の産業界での活躍を促進し、ひいては我が国の経済、社会の持続的発展を叶えるために、文部科学省として、企業の皆様と連携しながら、着実に施策を実行してまいります。御理解・御協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年3月26日

文部科学大臣 盛山正仁



文部科学省

令和6年3月26日

令和8年1月14日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 資料 1 - 2

1 文部科学大臣メッセージ | MESSAGE

博士人材は、新たな知を創造し、社会にイノベーションをもたらすことができる重要な存在です。海外では社会の様々な分野で活躍しており、我が国においてもその重要性和期待は非常に高まっています。博士を目指したい方が安心して学修できる環境を整え、高い専門性と汎用的能力を有する人材として生き生きと活躍することを後押ししたい。この思いから、「博士人材活躍プラン〜博士をとろう〜」を取りまとめました。

文部科学省は博士を目指す学生を全力で応援していきます。

学生の皆さん、文部科学省では、多くの博士課程学生が、より一層安心して研究に打ち込める環境を実現することが、より一層安心して研究に打ち込める環境を実現することが約束されます。ぜひともじっくりと腰を据えて、思う存分研究に打ち込んでください。研究により得られる真理を深く探究する経験や、新たな価値を世界に問う経験は、様々なフィールドで活躍するための大きな力となります。

産業界の皆さん、博士人材が多様な場で活躍していくことは社会の発展にとって極めて重要であり、採用拡大や処遇改善、従業員の博士号取得支援などの取組やご協力は欠かせません。積極的な取組を進めていただきますようお願いいたします。

文部科学省も大学関係者・

産業界の皆さんと共に取り組んでまいります。

博士が日本社会を変えるムーブメントを一緒に起こしていきたいと思います。



盛山正仁
博士（経済学）、博士（教育学）
文部科学大臣

2 意義・目的

博士人材は、深い専門知識と課題発見・解決能力などの汎用的能力に基づき、新たな知を創造し、活用することで、社会の改革、学術の発展、国際的ネットワークの構築を主導し、社会全体の成長・発展をけん引することができる重要な存在である。

今後、社会より高度化かつ複雑化する中、大学院教育において博士人材が必要なる力を身に付けられるようにするとともに、社会全体で学生一人一人の自由な発想と挑戦を支え、博士の学位の価値を共有しながら、国内外の様々な場で活躍できる環境を構築することによって、博士人材の増加を図ることが必要である。

3 目指す姿

博士人材が、アカデミアのみならず、多様なフィールドで活躍する社会の実現

5 取組の方針

- 1 産業界等と連携し、博士人材の幅広いキャリアパス開拓を推進
- 2 教育の質保証や国際化の推進などにより大学院教育を充実
- 3 博士課程学生が安心して研究に打ち込める環境を実現
- 4 初等中等教育から高等教育段階まで、博士課程進学へのモチベーションを高める取組を切れ目なく実施

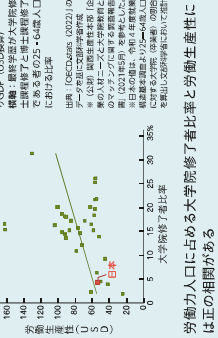
6 具体的取組

社会における博士人材の多様なキャリアパスの構築

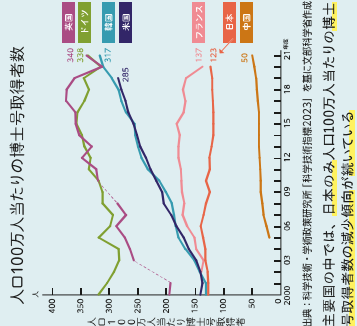
- ▶ より実践的で多様なキャリアにつながるインターンシップの推進やキャリア開発・育成コンテンツの提供、民間企業・大学等向けの手引きの作成、スタートアップ創出支援・人材供給など、関係省庁と連携して、産業界での活躍を促進
- ▶ アカデミアに加え、国際機関、中央省庁・地方自治体などの公的機関、学校教員、リサーチ・アドミニストレーター（URA）など、博士人材の社会の様々な分野での活躍に向けた取組を実施

2 意義・目的

■ 大学院修了者比率と労働生産性の関係

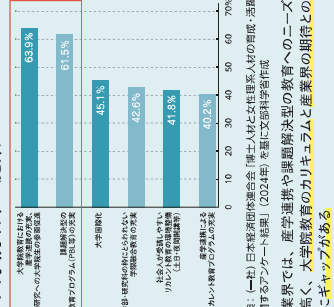


■ 諸外国との比較

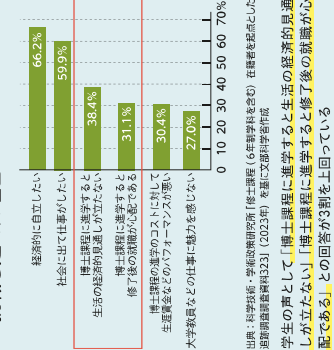


4 解決すべき課題・現状

■ 優先的に取り組むべき大学院改革の施策



■ 博士課程進学ではなく就職を選んだ理由



7 文部科学省からはじめます

- ・文部科学省で動く行政官における博士人材の採用目標の設定
- ・博士人材の強みの分析・検証、強みを生かしたキャリアパスの構築
- ・優れた博士人材の早格スピードを早める措置の実施
- ・働きながら修士・博士の学位を取得する文部科学省職員への支援制度の更なる活用促進
- ・文部科学省が実施するジョブ型研究インテンシブにおける人文科学・社会科学系をはじめとする博士課程学生等の受入れや省内各部署での職務経験機会の抜本的拡充

※上記と併せ、幹事職員の登用においても、2035年を目途として修士・博士の学位取得者の増加を目指す

▶ 文部科学省の取組を各省庁へ横展開

8 指標

学士号取得者に対する博士号取得者の割合



博士後期課程学生の就職率



文部科学省総合職採用者に占める博士課程修了者の割合



大目標

2040年における人口100万人当たりの博士号取得者数を世界トップレベルに引き上げる（2020年度比約3倍）

令和8年1月 定例学長記者懇談会資料

熊本大学 文学部附属 国際マンガ学教育研究センターの取り組み

- 地域活性化活動・メディア登場の活動報告
- 今後の活動告知と周知お願い

熊本大学 文学部附属 国際マンガ学教育研究センター兼務教員 池川佳宏 准教授

①文化庁メディア芸術カレントコンテンツでの マンガ学センターの取り組みの取材記事公開

(池川佳宏准教授)

「マンガと地域おこし 第7回 産官学のトライアングルが完成
熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター」

<https://macc.bunka.go.jp/6590/>

→ 熊大の産官学連携推進施策への全国的評価



文化庁メディア芸術カレントコンテンツ「マンガと地域おこし」第7回「産官学のトライアングルが完成」に掲載された記事のスクリーンショット。記事は、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターの取り組みについて取り上げ、産官学の連携による地域活性化の成果を報告している。

あやかし

②人吉市「CHOBIT 妖 漫画館」の開館協力

(鈴木寛之准教授)

- (文学部)現代文化資源学コースの学生が地域と
協力し、マンガ雑誌や妖怪作品単行本を設置
- 「夏目友人帳」聖地巡礼企画のサポート
- 全国ニュースとして配信



「人吉まちづくりデザイン会議」より

③文芸批評誌『ユリイカ』(2026年1月号)

「アリ・アスター特集」の作品解題をセンター教員と
現代文化資源学コースの院生が担当

(伊藤弘了准教授)

→ 継続的なマスコミ・業界誌との連携



青土社
『ユリイカ』
2026年1月号

今後の活動告知

■熊本県の移住促進企画「ラブくまプロジェクト」 (主催：熊本県 企画振興部 地域振興・世界遺産推進局 地域振興課)

が実施する「ラブくま交流会」(会場:大阪市)
にて、1/25(日)に天草在住漫画家**高浜寛さん**と
池川佳宏准教授が、マンガと熊本の魅力を語る
「熊本×漫画」トークイベントを開催
→詳細は配布のチラシをご覧ください



高浜寛…「ニユクスの角灯」で2020年手塚治虫マンガ文化賞の大賞受賞
歴史作品を得意とし、天草キリシタン館の展示企画にも参画

■2/16に発売される、矢口高雄『激濤』 (山と溪谷社発行)の作品解説を池川佳宏 准教授が担当 →センター資料を駆使して作品解説を執筆

「くまもとマンガ協議会」活動の周知お願い

■熊本大学と熊本日日新聞社は、 熊本県のバックアップのもと、 「くまもとマンガ協議会」を 立ち上げて活動をしています。

★イベント開催や在住クリエイター
支援のほか「マンガ刊本」を
使った「地域活性化」を進めて
います。→チラシ参照 (資料2-2)

熊本県でマンガ雑誌・単行本(刊本)
を活用した地域活性化事例

- ・合志マンガミュージアムの開設
- ・人吉市(くましば・妖漫画館)
- ・宇城市 eeeルームうきのば
- ・南阿蘇市複合施設 LOOPみなみあそ

くまもとマンガ協議会

このようなニーズはありませんか？

- 地域コミュニティの場を安価につくりたい(小規模～大規模)
- 集客施設に、人が滞留する場所をつくりたい
- 子育て支援、小中高生のためのスペースをつくりたい
- 図書館施設にプラスしたコーナーをつくりたい

※「くまもとマンガ協議会」とは
熊本県「マンガくまもと」方針のもと、熊本大学・熊本日日新聞社を中心に熊本市・合志市・湯前町などの多数の自治体・銀行・NPO・民間団体等60以上の団体が構成。地域と連携したマンガの活用と保存をKUMAネットワークとして構築。

Q マンガ本での地域活性化にはどんな実例がありますか？

小規模例 熊本県内の図書館や公民館、観光地のスペースに自由に閲覧可能な数百～数千冊のマンガ単行本を設置しました。
「人吉市 くましば」「宇城市 eeeルームうきのば」「南阿蘇市複合施設 LOOP みなみあそ」「上辺田見自治会」など

大規模例 合志マンガミュージアム・湯前まんが美術館など
(マンガ閲覧・マンガ原画展示施設)

Q 何をお手伝いしてもらえますか？

県内から集まったマンガの単行本の数万冊・プールから、各施設に合ったマンガ単行本を寄贈や貸与できます。
集客のための貴重本(展示用博物館資料)の寄託も可能です。

Q どんなマンガがありますか？

少年・少女向けマンガや大人・青年向け社会派マンガ、地域出身の作者や地域にまつわるマンガなど、年代やジャンルを問わずスペースの用途にあわせて選択できます。内容の相談も承ります。

Q どんな負担が必要ですか？

スペースと本棚があればOKです。寄贈本は本棚管理も不要です。

お問い合わせ：くまもとマンガ協議会
<https://kumamoto-manga-kyougikai.com/>

このようなニーズはありませんか？

- 地域コミュニティの場を安価につくりたい（小規模～大規模）
- 集客施設に、人が滞留する場所をつくりたい
- 子育て支援、小中高生のためのスペースをつくりたい
- 図書館施設にプラスしたコーナーをつくりたい

地域活性化を
マンガ本  で
お手伝いします

※「くまもとマンガ協議会」とは

熊本県「マンガ県くまもと」方針のもと、熊本大学＋熊本日日新聞社を中心に熊本市・合志市・湯前町などの多数の自治体・銀行・NPO・民間団体を含め 60 以上の団体で構成。地域と連携したマンガの活用と保存を KMM ネットワークとして構想。

Q マンガ本での地域活性化にはどんな実例がありますか？

小規模例 熊本県内の図書館や公民館、観光地のスペースに自由に閲覧可の数百～数千冊のマンガ単行本を設置しました。

「人吉市 くまりば」「宇城市 eee ルーム うきのぼ」「南阿蘇村複合施設 LOOP みなみあそ」「上辺田見自治会」など

大規模例 合志マンガミュージアム・湯前まんが美術館など
(マンガ閲覧・マンガ原画展示施設)

Q 何をお手伝いしてもらえますか？

県内から集まったマンガの単行本の数万冊プールから、各施設に合ったマンガ単行本を寄贈や貸与できます。

集客のための貴重本（展示用博物資料）の寄託も可能です。



Q どんなマンガがありますか？

少年・少女向けマンガや大人・青年向け社会派マンガ、地域出身の作者や地域にまつわるマンガなど、年代やジャンルを問わずスペースの用途にあわせて選択できます。内容の相談も承ります。

Q どんな負担が必要ですか？

スペースと本棚があれば OK です。寄贈本は本棚管理も不要です。



お問い合わせ：くまもとマンガ協議会

<https://kumamoto-manga-kyougikaicon/>



工学部公認サークル 学生災害復旧支援団体

くますけぐみ

熊助組



クラファン
実施します！



熊助組って？

2007年に工学部の学生
によって創立された
ボランティアサークルです

今までに行った 主な災害支援活動

2007年 美里町豪雨災害

2012年 九州北部豪雨災害

2016年 熊本地震

2020年 令和2年7月豪雨災害

2025年 令和7年8月豪雨災害



小学生や親子向けワークショップ

災害支援活動の経験や定例会で学んだことをもとに、平常時の備えや非常時の避難について楽しく学んでもらえるよう企画しています！

外部依頼・熊大文化祭での 防災教室





令和2年7月豪雨
で被災した人吉市

浸水した際の水位が
記された電柱を見て
いる様子



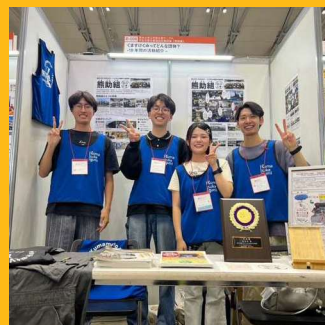
KIOKU

被災地訪問ツアー

全国の災害復旧支援団体 の方との交流



信州大学
KIDOU



ぼうさいこくたい
新潟



なぜクラファンをするのか？



2027年
～創立20周年
にむけて～



全国の
災害復旧
支援



人材育成



被災地
との
つながり



他団体
との
交流

未来へ
「たすけあい」
を繋ぐために。

募集期間

1月13日～5月11日

目標金額

250万円

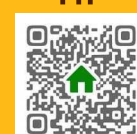
instagram



Facebook



HP



ご支援お願いします！

未来へ「たすけあい」を繋ぐために。
ご支援をお願いします！

クラウドファンディング

目標金額

250万円

令和8年1月14日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 資料3-2

募集期間：2026年1月13日(火)～5月11日(月)

工学部公認サークル 学生災害復旧支援団体

「熊助組」



熊助組は、2027年に20周年を迎えます！

私たち学生災害復旧支援団体「熊助組(くますけぐみ)」は、2007年から学生が主体となり、被災地での復旧・復興支援活動を続け、2027年には20周年を迎えます。瓦礫撤去から心のケアまで、学生ならではの情熱と行動力で多くの被災地に寄り添い、地域と未来を繋ぐ活動をしてきました。

学生の力で未来を守る！
その想いを継承するために！

しかし、長年の活動で安全な活動をするための保険料、資機材の維持費、被災地への交通費といった運営資金の確保が困難に。このままでは活動継続や安全確保、次世代の育成が危ぶまれています。



先輩たちが背中中で示してきた熱い想いを未来のメンバーへつなぎ、さらに被災地へ届けていきたいと考えています。未来の防災・減災を担う人材を育て、被災地に寄り添う支援が続けられるよう、皆様の温かいご支援を、心よりお願い申し上げます。

GLOCAL CROWD FUNDING



未来へ「たすけあい」を繋ぐ！

「熊助組」20周年！
学生が挑む災害復興と
次世代育成

詳しくはこちら▶▶



ご支援のお申込み詳細は裏面をご覧ください



【プロジェクトに関するお問い合わせ】
熊本大学 工学部公認サークル 学生災害復旧支援団体「熊助組」
Tel : 096-342-3268 (平日9:00~17:00)
Mail : kumasukegumi@kumamoto-u.ac.jp



GLOCAL CROWD FUNDING 【ご支援手続きに関するお問い合わせ】
株式会社グローバル・クラウドファンディング
Tel : 096-201-1851
Mail : info@glocal-cf.com

コースの選択について 以下のコースよりご選択ください

コース		支援金額	リターン内容
A	寄附3,000円コース	3,000円	・寄附金領収書 ・お礼のメール
B	寄附5,000円コース	5,000円	・寄附金領収書 ・お礼のメール ・「熊助組」オリジナルステッカー（2026年7月末までに送付）
C	寄附10,000円コース	10,000円	・寄附金領収書 ・お礼のメール ・「熊助組」オリジナルステッカー（2026年7月末までに送付） ・20周年記念冊子（2027年度内送付） ・20周年記念冊子へのお名前掲載（希望者のみ）
D	寄附30,000円コース	30,000円	
E	寄附50,000円コース	50,000円	
F	寄附100,000円コース	100,000円	・寄附金領収書 ・お礼のメール ・「熊助組」オリジナルステッカー（2026年7月末までに送付） ・20周年記念冊子（2027年度内送付） ・20周年記念冊子へのお名前掲載（希望者のみ） ・「熊助組」防災教室の開催（希望者のみ/2028年12月までに実施）
G	寄附300,000円コース	300,000円	
H	寄附500,000円コース	500,000円	
I	寄附1,000,000円コース	1,000,000円	・寄附金領収書 ・お礼のメール ・「熊助組」オリジナルステッカー（2026年7月末までに送付） ・20周年記念冊子（2027年度内送付） ・20周年記念冊子へのお名前掲載（希望者のみ） ・「熊助組」防災教室の開催（希望者のみ/2028年12月までに実施） ・感謝状贈呈（2027年度内実施）

※本プロジェクトへのご寄附は、熊本大学への寄附として税制上の優遇措置が適用されます。※寄附をされた方には、寄附金受領後、熊本大学より「寄附金領収書」を発行いたします。※寄附金領収書は、2026年6月頃に発行し、お手元に届くのは2026年7月末までを予定しております。※冊子への「お名前掲載」を含むコースは、下記申込欄に掲載を希望する・しないを表明いただき、掲載するお名前（任意のニックネームも可）をご記入ください。※20周年記念事業等の状況により、スケジュールは前後する可能性があります。変更がある場合は、活動報告等を通じて随時ご報告いたします。※詳しくは専用サイトをご覧ください。

お申込みについて ご支援方法は①または②よりご選択ください

専用サイトからお申込み

右記の二次元コードよりお申込みください。

① 専用サイトからお申込みいただき、クレジットカード又はお振込によるお手続きをお願いします。

URL : <https://www.glocal-cf.com/project/kumasukegumi>



申込用紙からお申込み（専用サイトでのお申込みが難しい方）

下記のお申込み欄に必要事項をご記入ください。

- ・ご記入後、申込用紙を事務局へご提出ください。（郵送・FAX・メール等）
※お申込み情報を事務局にて登録させていただきます。
※メールアドレスを記載いただいた場合は、お申込み内容と入金確認のメールが届きます。
- ・下記口座へお振込をお願いいたします。

お振込先：肥後銀行 本店営業部 普通預金 2574025
口座名義：株式会社グローバル・クラウドファンディング

【申込書類提出先】

（株）グローバル・クラウドファンディング

郵送：〒860-0807
熊本県熊本市中央区下通1-9-9

Fax : 096-201-3610

Mail : info@glocal-cf.com

ふりがな			コースと口数	<input type="checkbox"/> コース × <input type="checkbox"/> 件	<input type="checkbox"/> 返戻 不要
お名前			複数のコースのお申込みも可能です	<input type="checkbox"/> コース × <input type="checkbox"/> 件	
住所	〒 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>				
メールアドレス	@	電話番号			
応援コメント・備考			お振込額	円	
お名前掲載の方	希望する ・ 希望しない		掲載するお名前		

※この度はプロジェクトへのご支援、誠にありがとうございます。※お申込み内容につきましては、ご登録のメールアドレスへ内容確認のメールが届きます。また、今後のプロジェクトに関する案内等でメールを送信させていただきますのでご了承ください。※本用紙にて会員登録ならびに支援をお申込み頂いた方は、会員登録規約（<https://www.glocal-cf.com/terms>）及びプロジェクト支援に関する規約（https://www.glocal-cf.com/terms_project）に同意頂いたものとさせていただきます。規約は専用サイトをご覧ください。

グローバル・クラウドファンディングは、世界中から集めた「意志あるお金」を循環させ、地域の夢の実現に貢献します

株式会社グローバル・クラウドファンディング
第二種金融商品取引業者 九州財務局長(金商)第20号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会
熊本県中央区下通1-9-9 TEL : 096-201-1851



GLOCAL CROWD FUNDING

令和8年度 附属小学校 入学試験実施状況

R8.1.8

単位：人

	国際クラス 【外国人・帰国児童枠】 定員7（各学年）（※）		受験者		合格者		入学手続き者		国際クラス 【一般枠】 定員17			受験者	合格者	一般クラス 定員72	受験者	合格者	国際クラス 転クラス者 最大21（各学年）
									※併願あり	※併願なし							
1年	11	外国人児童10人 帰国児童1人	10	外国人児童9人 帰国児童1人	7	外国人児童6人 帰国児童1人	7	外国人児童6人 帰国児童1人	43	2		45	17	147	145	74	
2年	4	外国人児童1人 帰国児童3人	4	外国人児童1人 帰国児童3人	4	外国人児童1人 帰国児童3人	4	外国人児童1人 帰国児童2人									
3年	6	外国人児童3人 帰国児童3人	6	外国人児童3人 帰国児童3人	3	外国人児童1人 帰国児童2人	3	外国人児童1人 帰国児童2人									
4年	5	外国人児童3人 帰国児童2人	5	外国人児童3人 帰国児童2人	4	外国人児童3人 帰国児童1人	4	外国人児童2人 帰国児童1人									
5年	2	外国人児童2人	2	外国人児童2人	2	外国人児童2人	2	外国人児童2人									
6年	1	外国人児童1人	1	外国人児童1人	1	外国人児童1人	1	外国人児童1人									

※ 2年生は令和7年度の試行で受け入れた外国人児童が3人進級するため、最大4人受入

令和8年1月14日開催
熊本大学定例学長記者懇談会 資料4

【御礼】 110 大学中 7 位（Giving Campaign 2025）



1. 実施概要

本学では、大学公認サークルの主体的な活動を支援することを目的として、「Giving Campaign2025」を2025年10月10日～10月19日に実施いたしました。学内外の卒業生・保護者・地域の皆さまから、特定の団体を指定してご支援いただく仕組みとし、いただいた寄附金は各団体の活動資金として活用されます。

2. 実施結果

- ・参加団体数： 58 団体（大学公認サークル）
- ・応援投票数： 14,803 票
- ・寄附金額合計：2,363,988 円
- ・順位： 110 大学中 7 位



熊本大学 GC 特設サイト▲

3. 今後の展開

本イベントでは、学生団体と卒業生・地域とのつながりが再確認されるとともに、活動資金調達の新たな手段として浸透しつつあります。今後も、学生の寄附文化醸成、卒業生や地域の方々と学生とのつながりの充実につながるよう、継続的な実施を検討してまいります。

令和8年1月14日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 報告 2



©Takeshi Shiota

熊本大学文書館R7年度企画展 / 水俣病公式確認70年記念

塩田武史写真展

フィルムからひろく、人びとの物語 ストーリーズ

期間 2026年2月4日(水)～2月21日(土)

10:00～16:00 (最終入場 15:30)

会場 熊本大学五高記念館

入場無料
申込不要

(「僕が写した愛しい水俣」塩田武史、2008年、前頁、岩波書店)

「その頃は何とも思わなかったカットが、捨てがたいものとして浮かび上がってきた。一枚一枚の写真が語りかけてくる」

ギャラリートーク

日時 2月8日(日)14:00～14:30(塩田弘美、香室結美)

会場 熊本大学五高記念館

トークイベント

写真は語る？ 写真との対話と物語のはじまり

日時 2月8日(日)15:00～17:00

会場 熊本大学文法学部本館1階くまトヨ講義室

主催：熊本大学文書館

後援：熊本県

協力：熊本大学キャンパスミュージアム推進機構、一般社団法人 水俣・写真家の眼、

JSPS 科研費基盤研究(A)JP22H00036「21世紀における他者の痛みの交差性」(代表者：慶田勝彦)、

熊本大学大学院人文社会科学部附属国際人文社会科学センター学際的研究資源アーカイブ領域



どこか故郷に似た水俣を愛し、患者家族とのつきあいを重ね、ようやく人びとにカメラを向けた写真家・塩田武史（1945～2014）。彼はどのような人で、どのようなイメージを残したのでしょうか。

本展では、塩田武史さんが生前公開した写真、遺族である妻・弘美さんや写真家仲間の語り、そしてネガフィルムに収められた未公開写真から、武史さんが生涯大切にしていた水俣のイメージをみつめます。そこには人びとの日常の表情、土地の暮らしや記憶の細部が映し出されています。

展示は二部構成です。第一室では、塩田武史さんが生前公開した写真を展示します。第二室では、弘美さんと当館が協働して作成したネガフィルム・データベースと未公開写真、弘美さんと共に武史さんのアーカイブズづくりを進める「水俣・写真家の眼」の活動を紹介します。



©Takeshi Shiota

トークイベント 入場無料、申込不要

写真は語る？ 写真との対話と物語のはじまり

日時 2026年2月8日(日)15:00～17:00 受付 14:30～

会場 熊本大学文法学部本館1階くまトヨ講義室

※同日14:00～14:30、五高記念館にてギャラリートークが開催されます。
あわせてご参加ください。

司会 下田健太郎（熊本大学 准教授）

15:00 開会挨拶 文書館長 高野博嘉（熊本大学 教授）

15:05 塩田弘美・香室結美（熊本大学文書館 特任助教）

「水俣の人と風景―塩田武史のまなざしからひらく物語」

15:35 横谷奈歩（九州大学 助教・美術家）

「ある美術家による歴史の残し方―小さな声と対話して」

16:05 コメント 真島一郎（東京外国語大学 教授・文化人類学）

16:25 休憩

16:30 フロアディスカッション

17:00 閉会挨拶



©Takeshi Shiota

問い合わせ

熊本大学文書館

TEL 096-342-3951

email archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp

HP <http://archives.kumamoto-u.ac.jp/>

トークイベントに関するお問い合わせは、
2月6日(金) 15:00までお願いします。



プロフィール



塩田武史

1945年、香川県生まれ。法政大学在学中にカメラ部所属。新聞報道にふれ、1967年に初めて水俣を訪れる。1970年に水俣市に移住、家族と共に同地で15年間過ごした。週刊『アサヒグラフ』を中心に写真を発表し、1971年 銀座ニコンサロンで初の個展開催。『塩田武史写真報告 水俣'68-'72 深き淵より』（西日本新聞社、1973）、『僕がなした愛しい水俣』（岩波書店、2008、第30回熊日出版文化賞受賞）。2014年死去。



塩田弘美

熊本市在住。1972年に武史と結婚。水俣で暮らし、三人の子どもが生まれた。水俣病第一次訴訟や自主交渉にも同行。武史と共に患者家族や地域とつきあい、現在も交流を続ける。



横谷奈歩

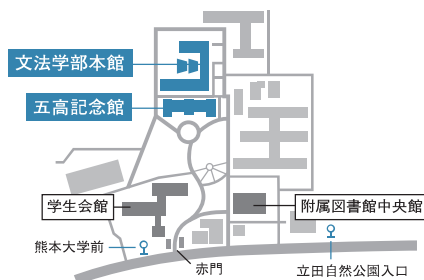
美術家、九州大学芸術工学研究院 助教。国内外にてワールドワークをしながら、個人の歴史や物語を元に作品制作を行う。近年の主な発表と滞在制作に、「星劇団再演プロジェクト」「高橋家まつわる物語」（広島県尾道市）、「いにしよによる一断片たちの囁きに、耳を―」（高松市塩江町）、「芸術と考古学―春休みの遺跡―」（杉沢遺跡／伊吹山文化資料館、2019）、「アートとサイエンスのあいだ」（イタリア、ブルキナファソほか2012-2015）等、共編者として『アートと人類学の共創』（水声社、2024）がある。

会場

展示・ギャラリートーク 熊本大学五高記念館

トークイベント 文法学部本館1階くまトヨ講義室

熊本市中央区黒髪2丁目40番1号



大学構内の駐車場は有料です。

（1時間超え4時間以内500円/4時間超え24時間以内1000円）

学内の駐車場所が不足しておりますので、公共交通機関をご利用ください。



©Takeshi Shiota